

課 題 レタスの活着率向上に関する調査

担 当 者 小林 照世

目 的 8月下旬～9月上旬に定植する露地レタスは、高温の影響で活着率が極端に悪い。慣行栽培では、泥跳ねによる病害発生や外葉の汚れを防ぐため、黒マルチを使用しているが、それでさらにマルチ内が高温になり活着不良を招いていることが考えられる。そこで、他の白・銀マルチを利用して活着率が向上できないか、また、その後の成長に影響がないか調査する。

供 試 品 種 サマーガイ（サカタのタネ）

試験区構成 1区 白マルチ
2区 銀黒マルチ
3区 黒マルチ(慣行)

区制及び株数 1区制 1区 20株

耕 種 概 要 栽培条件 露地
播 種 8月4日
定 植 9月1日
栽植密度 畝幅 150cm×株間 30cm×条間 40cm 444株/a
施 肥 量 元 肥 堆肥 200kg/a
有機石灰 15kg/a
有機入り複合肥料 674Z号 20kg/a
成分量 N1.2-P1.4-K0.8 kg/a
灌 水 9月1日～9月4日

結果及び考察

- 1 レタスの残存率を表1に示した。1区が95%で一番高く、次に2区が90%、3区が一番低く80%との結果になった。
- 2 定植後2週間の午後2時時点でのマルチ内平均温度を表2に示した。外気温が37.0℃のなか、1区は36.3℃、2区は37.3℃、3区は40.0℃で、2区、3区が外気温より高い結果になった。
- 3 収穫物調査を表3に示した。収穫開始日は1区が一番早く、次に2区、3区の順であった。収穫物に大きな差はなかった。

以上の結果より、1区白マルチは他のマルチより残存率が高く、収穫も早くなることが分かった。これは、マルチ内温度が外気温より、また、他のマルチより低く抑えられたことで、定植後の活着が向上したためと考えられる。

また、マルチの種類が、10月上旬収穫物の重量などには影響しないことも分かった。

今後、収穫量増加による、農家収入向上や産地の拡大を図るために、白マルチの使用を積極的に進めていく。

表1 収穫時の残存率

	残存率(%)
1区	95
2区	90
3区	80

表2 9月1日～14日までのマルチ内平均温度

	温度(°C)
1区	36.3
2区	37.3
3区	40.0
外気温	37.0

表3 収穫物調査

	収穫開始日	調製重(g)	球高(cm)	球幅(cm)
1区	10月9日	633	14.7	17.2
2区	10月12日	617	14.3	16.9
3区	10月13日	621	14.5	17.0